

三豊トンネル貫通 国道230号新ルート完成近づく

5年前の有珠山噴火で被災した国道230号の新しいルートとなる洞爺湖温泉―清水間（全長4,600m）の内、三豊トンネル（全長1,970m）が貫通し、8月30日、関係者約120人が出席して貫通式が行われました。

式典では、最後の壁面が掘削機で碎かれると、今までの労苦をねぎらって関係者が万歳三唱を行い、こも樽を乗せたたるみこしが登場してお祝いムードを盛り上げました。

あとはもう一本の青葉トンネルの完成が待たれますが、この三豊トンネルの貫通で、新ルート完成へ大きく近づきました。



貫通を祝っての鏡開き

合併に向け両庁舎をつなぐ 光ケーブル整備着工

洞爺村との合併を来年に控え、お互いの庁舎を光ケーブルでつなぐネットワークシステム整備事業（事業費は約5千万円）が始まりました。

同システムでは、天候に左右されず、安全に安心して情報を得ることができます。

この事業の着工に先立ち9月1日、工事を請負う日本電気システム建設株式会社が、ふれ合いセンターで、関係者約30人が出席し安全大会を行いました。

大会では、関係者全員で、労働災害の防止、交通事故の防止、



事故防止を全員で確認

工事・保守事故の防止を再度確認しました。

まちのわたい

先住民族供養祭厳かに行う



先住民族供養祭

9月18日、北海道ウタリ協会 虻田支部（妻木征男支部長）

の主催で、虻田町先住民族供養祭が、入江の歴史公園慰霊墓碑前で行われました。

妻木支部長が「供養祭に参加していただきましてありがとうございます。これからも虻田支部の発展のためがんばっていきたい」と挨拶。

その後長崎町長やウタリ関係者、教育関係者など約20人が読経の中一人ひとりが焼香し、先祖の霊を慰めました。

この後、場所を入江4区の集会所に移して懇親交流会が行われ、互いの親睦を深めました。

「日本温泉科学会」 洞爺湖温泉で大会



初回開催されたシンポジウム

9月7日から10日までの4日間の日程で、日本温泉科学会第58回大会が、洞爺湖文化センターで開催されました。

初日の7日は、公開フォーラムとして「北海道観光と温泉」をテーマとした3人の講師による公開講演と「洞爺湖温泉を中心とした西胆振地域の温泉観光地域づくり」についてのパネルディスカッションが、3講師のほか長崎町長、浜野洞爺湖温泉観光協会副会長を交えて開かれました。

この中では、エコミュージアム構想が紹介され、各エリアと災害体験型の新しい観光資源について話し合われました。